

佳作

大すきな妹

群馬県 太田市立沢野小学校四年 蓮沼 百花

私には、八才年下の一才六ヶ月のかわいい妹がいます。自分に妹ができると思っていなかったのですが、お母さんのおなかに赤ちゃんがいると聞いた時、とてもびっくりしました。今まで自分が一番下だったのでそうでなくなるのはちょっとさみしい気持ちとお姉ちゃんになれてうれしい気持ちの二つがあったのをおぼえています。

妹が生まれたのは、コロナの時期で生まれてすぐは病院に行けなく、会えませんでした。初めて会えたのは、お母さんが退院して家に帰って来た日です。私は早く妹に会いたくて学校から家まで走ってきました。一生けんめい走ったので、汗をかいて息もあがっていました。でも会ったしゅん間、「かわいい!!」ととても感動しました。妹はとてもとても小さくておどろきました。

二千六百七十四グラムで生まれた妹は顔も手も足もおなかもせ中もおしりも全部が小さくて、泣いている声も小さい。オムツや洋服、くつ下も小さい。小さすぎてやわらかくてこわれちゃいそうでした。そんな小さな妹を抱っこするのは最初ちょっとこわかったです。とてもきんちようしました。でも私の手を近づけるとぎゅっとにぎってくれてあたたかい。小さな心ぞうで一生けんめい生きているのを感じました。

妹を学童につれて行くと、先生や友達にかわいいと言われます。そして、家族も妹をいっぱいほめたりがわいがわいがあって、少ししつとしました。でもお母さんが、

「ももちゃんもこういう風にかわいがられていたんだよ。今も大すきだよ。」

と教えてくれてだきしめてくれました。

私はお母さんの言葉を聞いて「私もこんな風にかわいがられたんだな」と思い、うれしく、あたたかい気持ちになりました。

一才くらいになった時、妹はわたしの事を

「ねーね。」

とよんでくれました。私はとってもうれしかったで

す。私だけでなく「パパ」「ママ」とよんだり、車の事を「ブーブ」と言ったり、お絵かきのことを「じーじ」と言ったりします。小さいのにこんないろいろ言える事がとてもすごいと思いました。

私は妹が生まれてきてくれた事でとても感動し、その後も色々な気持ちになりました。たまにしつとしてしまう時もあるけれど、生まれてきてくれて本当に良かったです。生まれてきてくれてありがとう、これからもいっぱいねーねと遊ぼうね。